

2013年度(2014年3月期) 決算説明会



2014年5月13日

大正製薬ホールディングス株式会社

代表取締役社長 上原 明



2013年度通期決算：概要

(億円)

	2012年度	2013年度	前期比増減		予想比*
売上高	2,852	2,960	+108	+3.8%	+15
セルフメディケーション	1,713	1,818	+105	+6.1%	+14
医薬	1,139	1,142	+3	+0.3%	+1
営業利益	353	417	+63	+18.0%	+37
経常利益	442	512	+71	+16.0%	+47
当期純利益	263	327	+64	+24.2%	+27
EPS(円)*	325.26	403.18			-

注：金額は億円未満四捨五入

*2014年1月30日時点予想との対比



2013年度通期の概況（1）

• セルフメディケーション（SM）事業（大正製薬 国内）

– 主要ブランドの実績（前期比）

- リポビタンシリーズ（1.1%増）：
リポビタンフィルの寄与を含め、シリーズ品が貢献
- パブロンシリーズ（0.3%減）：
風邪はほぼ前年並み、花粉は飛散量少ない
- リアップシリーズ（11.5%増）：
一部駆け込み需要もあり、リアップX5が伸長
- リビタシリーズ（1.7%減）：
粉末シリーズを中心に予想を上回る

＜ご参考：市場の状況＞

– OTC医薬品市場

2013年度（2013年4月～2014年3月）：前年比+0.4%

（インテージSDIデータ、金額ベース）



2013年度通期 主要ブランド売上高（SM国内）

（億円）

	2012年度	2013年度	前期比増減		予想比*
			増減	増減率	
リポビタンシリーズ	668	675	+7	+1.1%	+10
パブロンシリーズ	261	260	▲1	▲0.3%	▲3
リアップシリーズ	139	156	+16	+11.5%	+14
リビタシリーズ	47	47	▲1	▲1.7%	+4
胃腸薬シリーズ	43	43	+0	+0.0%	+3
ナロンシリーズ	41	41	+0	+0.3%	+1
コーラックシリーズ	37	36	▲1	▲2.2%	+0

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年1月30日時点予想との対比



2013年度通期の概況（2）

• 海外事業

主な内訳

（億円）

	2012年度	2013年度	前期比増減	
海外事業	176	254	+78	+44.5%
SM海外事業	176	254	+78	+44.5%
海外ドリンク剤	71	90	+19	+27.2%
海外OTC医薬品	96	155	+60	+62.0%
インドネシア、シンガポール、 フィリピン子会社	56	60	+4	+8.0%
Hoe社	27	35	+9	+33.6%
CICSA社等4社	7	23	+16	+228.8%
大正オソサパ製薬	3	32	+29	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2013年度通期の概況 (3)

• 医薬事業

– 大正富山医薬品:

- 売上高:1,072億円(前期比7.0%増)

– 感染症領域:

ゾシン:適応追加も寄与、引き続き好調に推移

クラリス:経口抗菌薬市場の縮小により減少

大正富山医薬品の抗菌薬市場*シェア:21%

(*J01抗菌薬市場)

– 炎症・免疫領域:

エディロール:骨粗鬆症治療薬市場への浸透

が進み予想を上回る

<ご参考:市場の状況>

– 医療用医薬品市場:前年比+4.8%

- 当社の主力市場である抗菌薬市場は▲3.0%

(経口:▲5.9%、注射:+1.0%)

(Copyright 2014 IMSヘルス、JPM 2012年4月-2014年3月をもとに作成、無断転載禁止)



大正富山医薬品：2013年度通期 主要製品売上高

(億円)

	2012年度	2013年度	前期比増減	
大正富山医薬品	1,002	1,072	+70	+7.0%
大正製薬製品	620	668	+48	+7.8%
クラリス	190	164	▲26	▲13.5%
エディロール	88	141	+53	+60.6%
パルクス	85	79	▲6	▲7.6%
ジェニナック	61	68	+7	+12.1%
富山化学製品	383	405	+22	+5.7%
ゾシン	215	254	+39	+18.3%
オゼックス	82	72	▲10	▲12.3%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2013年度：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (+108億円)	セルフメディケーション事業 (+105億円)	医薬事業 (+3億円)
営業利益 (+63億円)	売上総利益* +85億円 (売上総利益率* 前期61.8% → 当期62.4%)	
	販管費 +21億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	▲15億円
	・広告宣伝費	+1億円
	・販売促進費	+28億円
	・人件費	+10億円
営業外損益:持分法投資利益 25億円(前期比 +9億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度：通期業績予想

(億円)

	2013年度 実績	2014年度 予想	前期比増減	
売上高	2,960	2,990	+30	+1.0%
セルフメディケーション	1,818	1,843	+25	+1.4%
医薬	1,142	1,147	+5	+0.4%
営業利益	417	305	▲112	▲26.8%
経常利益	512	385	▲127	▲24.9%
当期純利益	327	255	▲72	▲22.0%
EPS(円)	403.18	314.56	-	-
(参考)				
大正富山医薬品売上高	1,072	1,115	+43	+4.0%

予=予想

注:金額は億円未満四捨五入

増減は百万円単位で計算



2014年度予想 主要ブランド売上高（SM国内）

（億円）

	2013年度 実績	2014年度 予想	前期比増減	
リポビタンシリーズ	675	668	▲6	▲0.9%
パブロンシリーズ	260	260	+0	+0.0%
リアップシリーズ	156	142	▲14	▲8.9%
リビタシリーズ	47	48	+1	+1.9%
胃腸薬シリーズ	43	42	▲1	▲2.4%
ナロンシリーズ	41	41	▲1	▲1.3%
コーラックシリーズ	36	36	+0	+1.1%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度予想：海外事業

主な内訳

(億円)

	2013年度 実績	2014年度 予想	前期比増減	
海外事業	254	277	+23	+9.1%
SM海外事業	254	277	+23	+9.1%
海外ドリンク剤	90	96	+6	+7.1%
海外OTC医薬品	155	172	+17	+11.1%
インドネシア、シンガポール、 フィリピン子会社	60	66	+6	+10.2%
Hoe社	35	37	+2	+5.3%
CICSA社等4社	23	26	+3	+12.7%
大正オソサパ製薬	32	38	+6	+19.6%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



大正富山医薬品：2014年度予想 主要製品売上高

(億円)

	2013年度実績	2014年度予想	前期比増減	
大正富山医薬品	1,072	1,115	+43	+4.0%
大正製薬製品	668	706	+38	+5.7%
エディロール	141	155	+14	+10.3%
クラリス	164	145	▲19	▲11.6%
パルクス	79	70	▲9	▲11.2%
ジェニナック	68	59	▲9	▲13.5%
ビオフェルミン	8	37	+29	+379.9%
ボンビバ	12	30	+18	+144.5%
ロルカム	27	24	▲3	▲12.6%
ヤクバン他	14	22	+8	+52.9%
富山化学製品	405	409	+4	+1.1%
ゾシン	254	270	+16	+6.3%
オゼックス	72	69	▲3	▲4.1%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (+30億円)	セルフメディケーション事業 (+25億円)	医薬事業 (+5億円)
営業利益 (▲112億円)	売上総利益* +6億円 (売上総利益率* 前期62.4%→当期62.0%)	
	販管費 +118億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+14億円
	・広告宣伝費	+34億円
	・販売促進費	+25億円
	・人件費	+6億円
・その他	+38億円	
営業外損益：持分法投資利益 14億円(前期比▲10億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後
金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度の取り組み

- セルフメディケーション事業(大正製薬 国内)
 - ブランド強化・育成の時期
 - 通販:売上拡大期
 - 駆け込み需要の反動への対応:
 - 計画に織り込んでおり、1Qの回復の状況等をみていく
 - 新製品(予定)
 - リポビタンシリーズ:新規ユーザー拡大
 - パブロンシリーズ:製品リニューアル
 - リビタシリーズ:メタボ領域拡充
 - 通販:製品ライン拡大



2014年度の取り組み

- セルフメディケーション事業（海外）
 - 連結売上高比率10%の早期達成
 - OTC医薬品事業
 - 東南アジアを中心とした、成長市場での事業展開
 - 買収した事業をプラットフォームとし、各国でのプレゼンスを高め事業を拡大
 - 現地通貨ベースでの着実な伸長
 - ドリンク剤事業
 - 経済成長を続けるアジアを中心とした取り組み
 - OTC医薬品事業と並ぶ2本柱の一つとしての展開



2014年度の取り組み

- **医薬事業**

- 大正富山医薬品

- 感染症領域のリーディングカンパニーとして
情報提供の更なる強化
- 炎症・免疫領域の拡大
骨粗鬆症治療剤「エディロール」「ボンビバ」の育成
- 代謝性疾患領域への進出
2型糖尿病治療剤「ルセフィ」新発売(予定)

- 研究開発

- 「感染症」「整形外科疾患」「精神疾患」「代謝性疾患」
を重点領域とした取り組み



医療用医薬品：開発品の状況

- 2013年度第3四半期決算発表時からの変更点

(2014年5月12日現在)

TS-071* (販売名:ルセフィ)	
特長他	SGLT2阻害作用
適応症	2型糖尿病
変更点	申請中 → 承認 (2014年3月24日発表)
TS-091	
特長他	過眠症状改善作用
予定適応症	中枢性過眠症
変更点	フェーズ1 → フェーズ2

*TS-071: 一般名:ルセオグリフロジン水和物

その他の変更

- ・パルクス(腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行): 今後の研究開発戦略を考慮し削除



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：国内

(2014年5月12日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
承認（薬価収載前）			
ルセフィ* (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 2型糖尿病	自社	大正製薬
フェーズ3			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症等	トクホン共同	トクホン
CT-064** (経口)	<u>ビスホスホネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

*ルセフィ

一般名：ルセオグリフロジン水和物、開発コード：TS-071

**CT-064

一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コードはRG484



医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品(続き)

(2014年5月12日現在)

	特長他 予定適応症等	開発形態	オリジン
フェーズ2(国内)			
NT-702 (経口)	気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	血管拡張作用、血小板凝集抑制作用 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
TS-091 (経口)	過眠症状改善作用 中枢性過眠症	自社	大正製薬
フェーズ1			
	対象疾患	自社／導入	国内／海外
TS-071	2型糖尿病	自社	海外
TS-111	うつ病	自社	海外

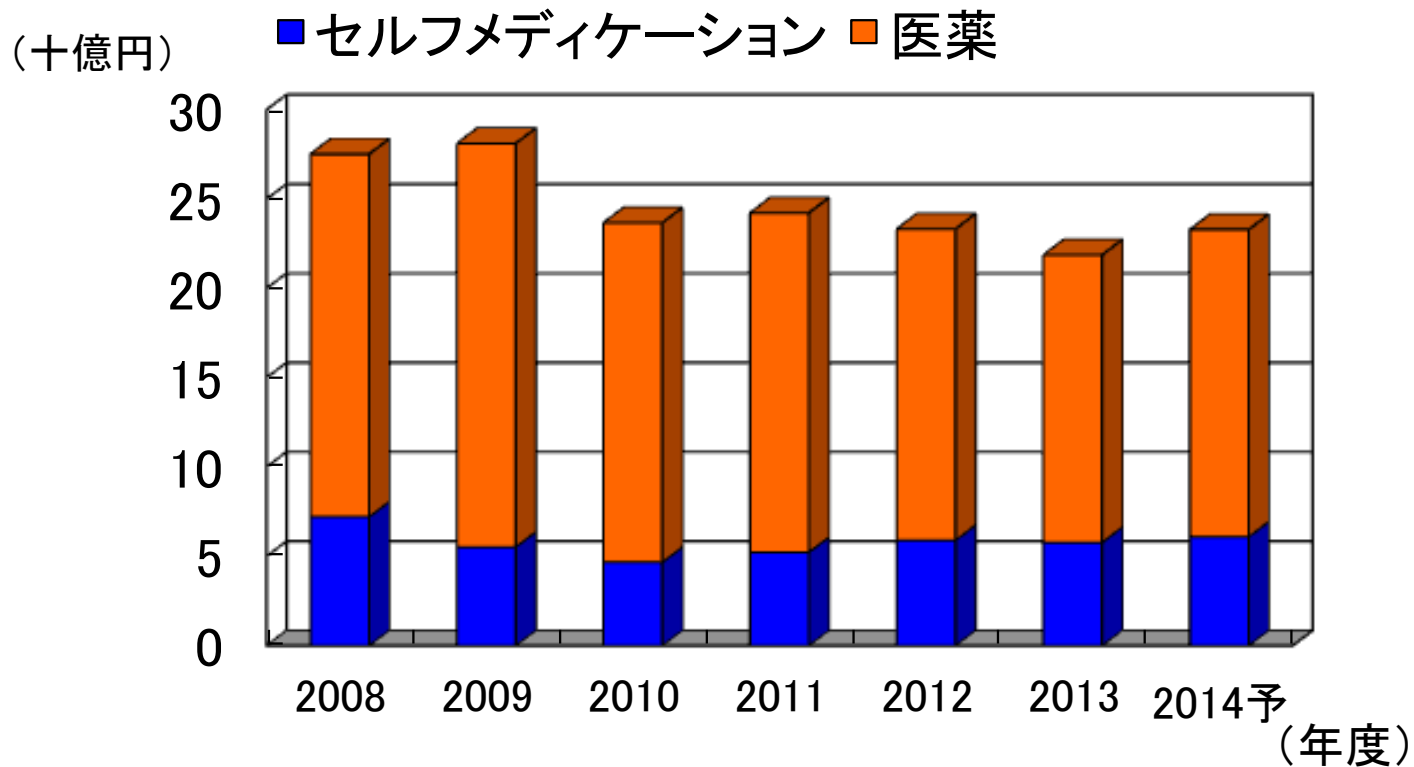


研究開発費の動向

2013年度実績:219億円(前期比▲15億円)

2014年度予想:233億円(同 +14億円)

(内訳)SM事業:+3億円、医薬事業:+11億円





株主還元について

- 2013年度配当：
1株当たり110円（配当性向：27.3%）
（中間50円、期末60円）
- 2014年度配当（予想）：
1株当たり110円（配当性向：35.0%）
（中間50円、期末60円）
- 配当、自社株買いの方針
 - 配当性向 30%（特別損益を除く）をメド、持続的な安定配当の実施を目指す
 - 特段の事情がない限り、1株当たり100円の年間配当を維持する



大正製薬グループの方向性

- 「セルフメディケーション事業」「医薬事業」を両輪にグループとしてバランスのとれた成長を目指す
 - 事業環境の変化をチャンスとして取り込む
 - 国内での強みをさらに発揮するとともにアジアを中心とした海外での成長を目指す
- 持続的な成長を目指すためのグループ体制
 - 「大正製薬」「大正富山医薬品」を中心に展開
 - 各子会社の強みを活かし、グループ内での連携、補完関係を強化

參考資料



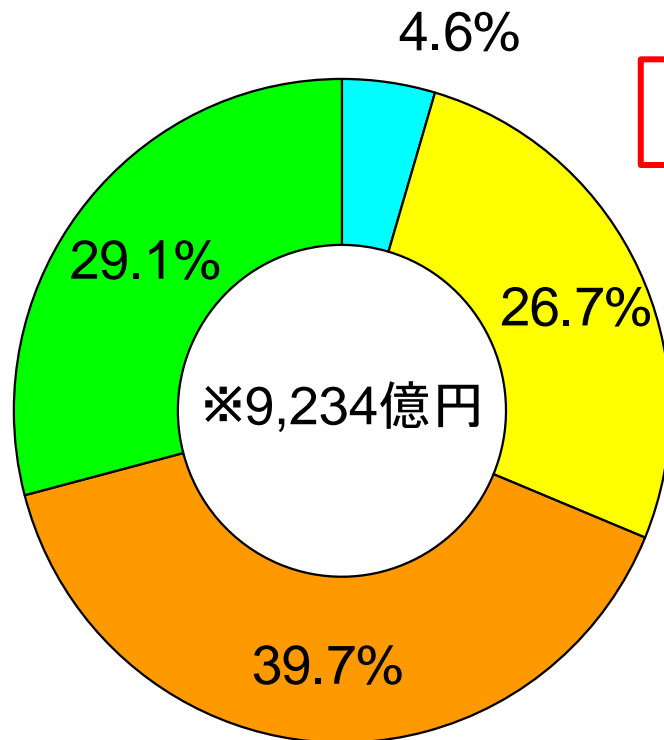
OTC医薬品分類別構成比

国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く

2012年4月-2013年3月

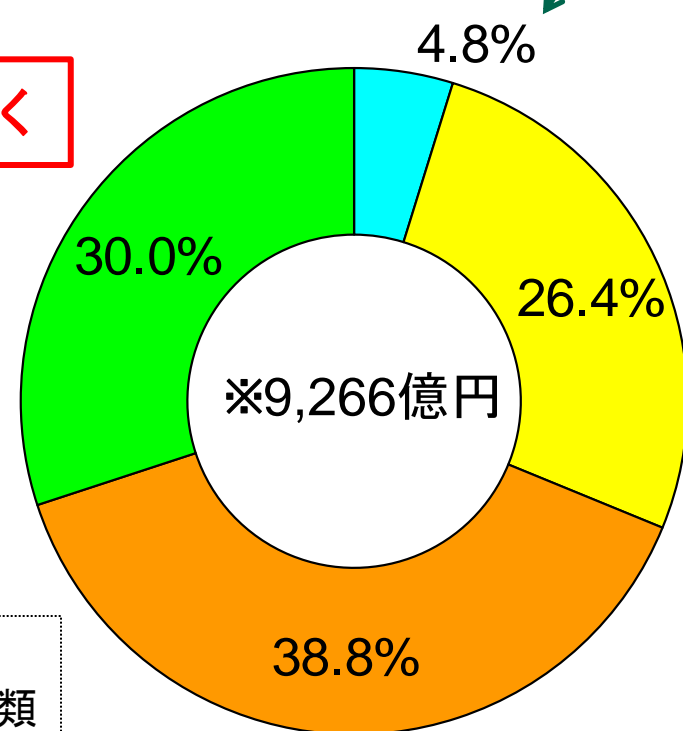
2013年4月-2014年3月

第1類の
前年比
105%



部外品を除く

前年比
100.4%



(インテージSDIデータ2014年4月時点、金額ベース、各年4-3月累計)



当社のOTC医薬品分類別売上構成比

